

## 希学園 第403回 小4公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

| 動画タイトル                              | URL   |
|-------------------------------------|---|
| 第403回公開テスト 小4国語 解説動画(2025年12月14日実施) | <a href="https://vimeo.com/1146147964/f074799e90">https://vimeo.com/1146147964/f074799e90</a> |

2

4 空実がにわかには信じがたい話をまじめに語つた  
ので、自分も電柱をのぼっていた理由を、信じても  
らえなくても話す  
しかないとあきらめたから。

(同意可)

6 ③ 見た目  
5 ウ  
4 オ  
3 W よ  
2 X 東西  
1 Y イ  
0 Z ど  
- の 時  
- て い  
- る  
7 ② い文化  
6 ② 1  
5 ③ 2

3

1 見態  
2 I 羽年  
3 II ハ工  
4 III ウ  
5 IV ア  
6 A 工  
7 B ウ  
8 C ア

2

3 a イ  
b エ  
c ア  
d ウ  
1 A げ  
2 B ま  
3 C ウ  
4 D ア  
5 E オジ  
6 F 一軒  
7 G おじ  
8 H 一軒  
9 I おじ  
10 J 一軒  
11 K おじ  
12 L 一軒  
13 M おじ  
14 N 一軒  
15 O おじ  
16 P 一軒  
17 Q おじ  
18 R 一軒  
19 S おじ  
20 T 一軒  
21 U おじ  
22 V 一軒  
23 W おじ  
24 X 一軒  
25 Y おじ  
26 Z 一軒

1

4 橫笛  
3 停電  
2 運命  
1 寒い  
0 拾つて  
- 薬局  
- 商売

配点

1・2 5・3 3 各2点×13=26点  
24 6点  
その他 各4点×17=68点  
<計> 100点

1 「運」の「しんによう」を続け字にしないように。「命」の三画目の「一」が短くなりすぎないように。

2 「捨（ひろう）」は「捨（する）」と間違えやすいので気をつけよう。

3 「商」のなかを「古」にしないように。「売」は最後の二画がつながらないように。

4 「横」「笛」とともに「由」を書く部分がある。上を確実に突き出すこと。

5 「寒」のまんなかを「其」のようない形にしないように。最後の二画の点の向きにも気をつけよう。

6 「薬」はくさんむりをわすれないように。「局」は字形を正確に覚えよう。

## 2 「マジカルな夜」

田中直子

※問題作成の都合上、一部表記を変更しています。

1 「停電」にしか気づけていないのでは本文の理解として不完全である。「リハーサル」とは予行演習のこと。実際に停電にするのは三日後である。

2 1はクールな印象をもたれている七湖が電柱をのばっているところを見られたときの気持ちなのでウ。2は七湖が空実の細い体をながめていることからイ。3は本文前半でお店のおじさんが目をそらす場面から罪悪感を読みとつておきたい。工である。

3 波線部のことばも選択肢のことばも、すべて心情表現になつていて、心情読解にはことばの知識も必要不可欠である。

4 流れをしつかりふまえよう。「……なんで？」理由があるにちがいない。→「どうせ、信じてもらえない」そこで、空実はちよつと考へて、「じゃあわたしも、信じてもらえないかもしれない話をす。……」→七湖は小さくため息をついて、「わかった。ねえ、……」という流れである。

5 A「しぶしぶ」気が進まないまま、しかたなく物事をするさま。2「しげしげ」物をよくよく見るさま。3「まじまじ」目を離さないで一心に見つめるさま。

6 流れをしつかりふまえよう。「どうしてそんなに協力してくれるの？」→「それはまあ……わたしもちつちやい時、ハムスターがつけてたからね」いつしょに過ごしたのはたつた二年七ヶ月だつたけれど、大好きな友だちだつたから。という流れである。アは「二年七ヶ月もいつしょに過ごした」が不適。イは「自分にとつて全ての動物が友だちのように大切な存在」が不適。工は「家族」についての内容になつていていたため不適。空実にとつてハムスターは友だちであった。

7 六町内が真っ暗になつたのはマジシャンのおじさんの献身的な努力によつて、夜空が真っ暗になつたのは羽年が眠そうな顔で不思議な力を使つたことによつてであつた。実はおじさんよりも息子の羽年のほうが魔法のようない力を持つていたのである。

8 ア「お店の人」に信じてもらえないかしれないと思ひ」とあるが、本文前半で「わたしが食べるところ、お店の人しか見てなかつたし。今でもフードコートに行くと、お店のおじさんは目をそらす」とあるのだから、お店の人は空実が回転まんじゅうを百五十三個食べたことを知つてゐるのである。

## 3 「子どものおしゃれにどう向き合う？ 装いの心理学」

鈴木公啓

※問題作成の都合上、図を一部改変しています。

1 直後に「装いは、広義には……と定義されます」とあるが、ここでは「★よりあと」という指定に合わない。続きに「つまり……」とあり、その段落の終わりに「とにかく、……を『装い』といいます」とあり、ここが答えになる。

2 I「多様なものを含み」と「多様な意味を持つて」が並べられている。II「見た目を変化させるためのあらゆること」に対し「化粧品を体に塗ることによる化粧」などは具体例である。III「現在見つかっているもつとも古い装いの痕跡は……」と、そこまでの流れからやや脱線した内容が続いている。IV「なにかをまとうといった装いは、もつと古くからおこなわれていた可能性があります」→(ということはいつからおこなわれていたのかが説明されることが期待されるが)→「そういう装いは痕跡が見つからない（残らない）ため、どのくらい昔からおこなわれていたかは、今のところ謎となつています」という流れ。

3 W「および」ならびに。また。そして。X「古今東西」昔から今までと、四方のすべて。いつでもどこでも。Y「タイプ」形。型式。Z「まとう」身につける。着る。

4 Aが含まれるグループは全て形として残らないものであるからエ「しぐさ」が入る。Cは「ピアスや、美容整形や……などは、身体変工に含まれます」から決まる。Bは身体装飾ではあるが身体変工ではないウ「服装」になる。イ「おしゃれ」は本文中で「はじめに」で、時代によつておしゃれは異なるという話をしましたが、……」の一か所にしか登場せず、他の概念との関係は本文の範囲からは不明である。しかしその直後で「装い」や「装うこと」そのものには、……普遍性があります」とあるので、「装い」に近いやや広い概念なのであろうという推測はできる。いずれにせよ「ピアス」「服装」などの具体的な装いの種類と同列のものではないことはわかる。

5 本文2～3行目にある「装い」の定義から、ア・イは適切であることがわかる。また図に「しぐさ」や「姿勢」も含まれることから、「言葉づかい」のようない形としては残らないがその人が他者に与える印象を変えるものもまた装いの一種であると考えられるため、工も適切である。ウ・オはいずれも他者からの見え方に関するこではない。

6 ②「まず、時間を超えた普遍性から考えてみましょう……これが時間を超えた普遍性があるということです」が目印となる。③「次に、文化を超えた普遍性です……それが、文化を超えた普遍性があるということです」が目印となる。

7 ア「装い」と「身体装飾」がほぼ同義で、「身体変工」は身体装飾の一部であることが図からわかるため、「装い」とより意味が近いのは「身体装飾」である。イ「7万5千年前」というのは「現在見つかっているもつとも古い装いの痕跡」であつて、「もつと古くからおこなわれていた可能性」があるのであつた。